

科目名 Course Name		開講年次	開講学期	曜日・時限
発達と老化の理解 Development and Aging		1年	前期	別途、時間割参照
単位数	授業の形態	授業の性格		履修上の制限
2単位	講義	選択	介護福祉士養成課程以外の学生と 社会人対象	
当該科目の理解を促すために受講しておくことが望まれる科目				
特になし				
同時に履修しておくことが望まれる科目				
認知症の理解				
担当者に関する情報				
氏名	研究室の場所	オフィスアワー		電話番号・メールアドレス
森 千佐子	福祉棟 2F	月・水・金曜日 (授業時間を除く)		授業中に指示します
授業の概要				
日本では急速に高齢化が進み、これまでの「人生65年時代」の考えから「人生90年時代」を前提とした考え方への転換が必要とされている。「発達と老化の理解」では、老化を発達の観点からとらえ、老化に伴う身体機能の変化、高齢者の心理および社会的機能の変化に関する基礎的知識を習得する。また、老化に伴う心身機能の変化が高齢者の日常生活に及ぼす影響について学習し、生活上の留意点について考える授業とする。さらに、老年期に多い疾患の特徴や要介護高齢者および家族介護者の状況についても学習する。				
授業の目標				
①発達と老化の定義、発達段階および発達課題について説明できるようにする。 ②授業での体験を通して、老年期における身体的変化と日常生活上の留意点について、説明できるようにする。 ③老年期における心理的特徴や知的機能及び社会的機能の変化について、説明できるようにする。 ④老年観の変遷について説明できるようにする。 ⑤老年期における疾患の特徴、要介護高齢者および家族介護者の状況について、説明できるようにする。				
授業の方法				
講義科目であるが、高齢者擬似体験や車いす体験を取り入れることで、老年期に対する理解を深め、日常生活上の留意点について考える授業とする。試験前には知識確認の問題を配布するので十分に活用し、学びを深めてほしい。				
学習の成果（学習成果）				
①人間の成長、発達における特徴と課題について、説明することができる。 ②老年期の心身の特徴や変化を踏まえ、生活上の留意点について考え、述べることができる。 ③自分の老年観を見出し、超高齢社会における課題や対応策に対して、自分の考えを述べるることができる。				
授業のスケジュールと内容				
第1回目	ガイダンス（授業概要と進め方・成績評価の方法など） 発達と老化の理解：発達の定義、発達段階と発達課題			
第2回目	老年期の理解① 老化と加齢、老年期の定義と区分、老年観の変遷			
第3回目	老年期の理解② 老年期をシミュレーションする：高齢者擬似体験【演習】（演習内容は授業で説明する）			
第4回目	老年期の理解③ 老年期をシミュレーションする：車いすでの移動【演習】（演習内容は授業で説明する） （前回の振り返りレポート提出）			
第5回目	老化に伴う身体的機能の変化と日常生活への影響① 感覚器機能、消化機能、循環機能、呼吸機能 （前回の振り返りレポート提出）			
第6回目	老化に伴う身体的機能の変化と日常生活への影響② 呼吸機能、骨・筋・関節系、腎・泌尿器、生殖機能、体温維持機能			

第7回目	老化に伴う知的機能の変化と日常生活への影響：記憶機能、認知機能（小テストと答え合わせ・解説①）		
第8回目	老化に伴うこころの変化と日常生活への影響：老いが及ぼす心理的影響、老いの価値観と受容		
第9回目	老年期における社会的機能の変化と社会参加：社会的機能の変化、社会参加・社会活動		
第10回目	高齢社会における今後の課題		
第11回目	老年期の疾患の特徴		
第12回目	老年期に多い症状と疾患		
第13回目	高齢者と薬：「くすり」とは、高齢者の薬服用の実態と課題、使用上の留意点 （小テストと答え合わせ・解説②）		
第14回目	高齢者とのコミュニケーション：コミュニケーションの意義、コミュニケーションに影響する要因、コミュニケーションの基本（試験）		
第15回目	要介護高齢者と家族の理解：要介護高齢者の状況と対応、高齢者を介護する家族の状況と必要な支援		
成績評価の方法と基準			
評価の領域		割合	評価の基準
授業参加態度		20%	以下の視点で評価する。教材を準備して授業に臨み、必要なことはノートにとり、わからないことは質問すること。また、高齢者擬似体験や車いす体験の演習の際には、服装を整えて積極的に参加すること。
レポート		20%	「高齢者擬似体験」と「車いす体験」の振り返りレポートを課す。S評価のレポートは、提出期限が守られ、体験からの感想のみでなく学びが具体的であり、高齢者の視点で考えた生活上の留意点が記述されていること。
調査報告書			
小テスト		20%	7回目、13回目の授業のはじめに、それまでの学習内容について、文章の正誤等を問う小テストを実施する。
試験		40%	穴埋め、記述、文章の正誤を判断する問題等により、知識の確認をする。
発表内容（態度含む）			
その他			
教科書と参考図書			
資料を配布する。参考書については、授業の中で紹介する。			
履修上の留意点・ルール			
講義・演習とも積極的に参加し、演習時は身じたくを整えて臨むこと。机の上に携帯電話、飲み物など教材以外のものを置くことは禁止する。やむを得ず欠席の場合は、必ずその部分の学習を補い、届け出は速やかに提出すること。			